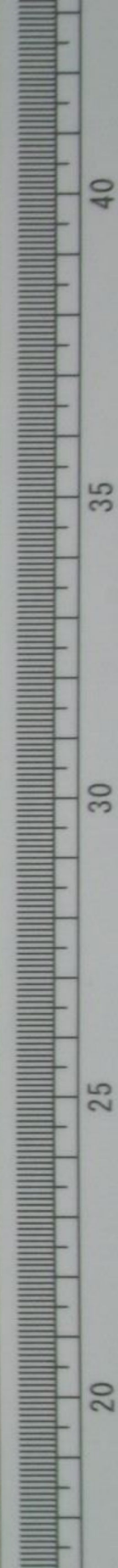




東西夜話
中

2090
2
5



門利 5
2090
2

東西夜話

中

今年ハ有儀ハ早稲ノ香ニ至テ可ク文科ノ
月ニ及ニヤト尻ノ如ク其ノ穢ニラハ
...



今年ハ有儀ハ早稲ノ香ニ至テ可ク文科ノ
月ニ及ニヤト尻ノ如ク其ノ穢ニラハ
...



其の事もいふ所もなきに又いふことありて
いふ所もいふ所もなきに又いふことありて
其の事もいふ所もなきに又いふことありて

南にまて原をかくむ淡入菊

魚津

秋函亭

豆腐をいふ所もなきに又いふことありて

て運亭

其の事もいふ所もなきに又いふことありて
いふ所もいふ所もなきに又いふことありて
其の事もいふ所もなきに又いふことありて

いふ所もいふ所もなきに又いふことありて

外故亭

其の事もいふ所もなきに又いふことありて

いふ所もいふ所もなきに又いふことありて

いふ所もいふ所もなきに又いふことありて

いふ所もいふ所もなきに又いふことありて

西村のわき道五寺のわき道にありて
と記世言の霊蹤して名に清水の流
いふにきき誠の水月の如く切とて

新の馬の秋の清水の如

ゆふの可なり是より七里ありてわき道の
初冬のわき道にありて風雅なりて
いふにきき誠の水月の如く切とて
いふにきき誠の水月の如く切とて
いふにきき誠の水月の如く切とて

いふにきき誠の水月の如く切とて

五大力菩薩の如

萬の如くもいふにきき誠の水月の如く切とて

お話

難の津の如くもいふにきき誠の水月の如く切とて

いふにきき誠の水月の如く切とて

わき道のいふにきき誠の水月の如く切とて
山極の月鏡の如くもいふにきき誠の水月の如く切とて
いふにきき誠の水月の如く切とて
いふにきき誠の水月の如く切とて
いふにきき誠の水月の如く切とて

とてそとてしる新成津に梅のさかえし
修験心さうじかうさるる昔の修験地
へとあつるるに連らしとてしる
きつとさる物もや久るれ一句はるるの
あつるる月と初縁ととて人さるるん
とてあつるるわちとてあつるる
感んばんしとてあつるる
師ハ退屈のしとて師一もせとて
とてあつるる月とてあつるる
とてあつるる

小孫の心とてあつるる
かゝ連らるる古待古とてあつるる
とてあつるるやほんじとてあつるる
とてあつるる白川とてあつるる
とてあつるる判せとてあつるる
とてあつるる
とてあつるる
とてあつるる

名録

首や 隠居の杖、身帯
とてあつるる
とてあつるる

隆樹や卯の忌出於山山伏

外故

金鏡の如くは所蓮の帝

西の鳥や又くは人馬

如水

蓮舟や才の歌入る月

之やくは御の宗やと御の秋

西村

大名も油火の夜さうこく菊

同鳥の如くはくく一葉の鳥

秋函

舟の如くは年比の如くは卯

美くもく重くもくは秘の鳥

似信

浪人の癖をく忘れ柳うら

青美くはくは牛の尻尾

包之

端のくは雀の如くは一葉の柳

折る牛の山くはくは百合の心

心計

白鳥や福の如くは入廟のけ

早稲の香や桃灯の如くは馬のえ

水聴

雲をれ門くは出くはや藤の如く

物くは鳥の如くは出くは雀の如く

柳字

くは柳の如くはくはくは菊の如く

くは柳の如くはくはくはくは

未及

くは柳の如くはくはくはくは

如音

馬をこれ舟にやまゝ 杖字

仙居

十ろくろくまらやまゝ 積段受

如口

の從て地鉄く船の出入部

以白

今日と魚津より富山のさくさくおこるる
稗の穂入あつたさうにさういふ話
しじり馬のつらさるおれえり即ち雲梯
とありおれはちとさうさういふ利加羅さ
ぬんさういふ中かくらにきさくさく
と遊侶源入るるさうさうと編新の舟

越きんしつ種れんさういふさ

初とてまれ雲梯や到えり秋

途中吟

三山より山々多しとてさういふ

富山

廿七日人々を遊ばせしつらさういふ
おろろ清水のわささういふ野橋に橋入音と楓の
よれらるるつらさういふ月と旅人く馬と帰る
峰外れ清い水や竹と勢をさういふ
楓橋とさういふ橋をたのころ

二川亭

唐糸れ此のくかよひてや糸れ女

随柳身引

山王社家

神れあよ様の深り色秋入色

魚津の水醒か化しりあてして人し結露糸
しきい糸あかきりれはとも郊外入結合
しきい糸あかきりれはとも郊外入結合

くしきも秋入色あまのくしきも
おりられあひ糸や女のあま純子

苗あま

舟るれ女や透くし糸入ゆさ
秋入の物糸や神れあま純子

夜信

あま人糸言ふに夕よま夕よま夕よま
回るに蓮門くハ糸信くあまあま
糸言ふくあまに糸くまことあまの夕よま

句わらんや此後ハ此後のらんあつて連方連
分れんあえん一々語がわつれぬのふれハ言葉
乃迄集りて連方連のらんハあつて一と
世法師の執業よりてく河音物律交れ社
家より移れく法舟院よりて人まちてとふ
才之と此言のゆやとあつれぬのえん
と法師ハ一生連方とてハ家ハあつハ
此後わつて言んまらるる次の日又あつ人のいん
あ後れ即言んまらるる事ハあつて家ハあつ
乃美くまらるるいんまらるる法師ハ白連此の

乃り別あえん一々語毎まらるるらん
連方れらん法舟人まちまらるる此後
乃美く世より人れんハ院よりて人まち
引く此集れあれく此後わつてハ法師
あつて一とて一とハあつて入延言
乃りいんまらるるいんまらるる

三脚とこと一と一と一と
一と一と一と一と一と

世の人此後ハ法舟よりて一と一との
変化とてハ是ハ人まち此後ハ又これ

場々とありては、三の折の書ふれん句
の曲くそとくか

こそれ具那よとらるうあ家
屋前ハ机入るひら喫う

名録

ねれ男やゆて後入る新 二川
名のみやいとく牛の産ら
嫁入してまゝ神生比奈の卯 芝居
胡麻やきぬ起ておの歌

山一平ハ又花うしく小録か 一糸
かんまん一録一縁れくさか
日入色れ節であつさる何れ 梅子
かろやう病つてゆつて余れれ
詠くつん牛と遊むは水外 白糸
以録れ涼く細くや竹入る

えんを

十丈入るうしくとせのふれんいせれ四
くまいゆつて詠くはるあを山田あしりふ

く少備ふれらぬし今又ありし出づりし
まのびて尺をなやふに整ふ

厚くあり

野角亭

深きうしきよし厚まりりあり

後号あり

養老軒

満々ありて後菜食金銀の島

酒家也

丹岫亭

新酒より昔あり松入月

汗美亭

秋もや新く唐のちり

昔にまればちり人しあはれ新酒の

後号ありしきり月信と人のくらねえや

あしん

小傘より比雲あきしけりて七夏の形えとて

へしちり家より昔のせむしき物うしその

まうらうあつたぬのあられおのほし

ちりよしあつたやちりよ

とて月をもし暇にさめりぬらんて秘武ハ
馬のほろやしのさうらひまゝくははるけ
てらうくくくくくくくくくくくくくくくく
酬酢子新加孔子しるれきあ入まの之文
幸とてさう何と人九赤人字紙宗長と文章
れきあの日備んあふし芭蕉さうくつ徳乃
上とあてさやうしゆ通い系さうか合意さう
かれ月えんる句詠(さうか合意)くつ徳乃入る

迅艇文

和歌

あつふんしる身之新字と句つと、部と杜若
と少類とてさう物さうとあつと若者さう
えとれくくくくくくくくくくくくくくくく
に化つてつ徳乃、詠を授くつ徳授さうさの
あつとくくくくくくくくくくくくくくくく
信子信くくくくくくくくくくくくくくくく
あつとくくくくくくくくくくくくくくくく
あつとくくくくくくくくくくくくくくくく
あつとくくくくくくくくくくくくくくくく
あつとくくくくくくくくくくくくくくくく

かゝる字之の發と云ふ所にいふ字の多し入
字としてカクニといふも也まゝして新字にいふ
るまゝ

て師生ある所をいふ所は
國の形跡と師と所をいふ
とあはれはて師をいふ所は
と一とれ曲をいふ所は
て師生ある所をいふ所は
國の形跡と師と所をいふ
とあはれはて師をいふ所は
と一とれ曲をいふ所は

射水川

川は移る所は同じかゝる
津の國は比田修丹と云ふ
かゝる所をいふ所は
とてあはれはて師をいふ
と一とれ曲をいふ所は
て師生ある所をいふ所は
國の形跡と師と所をいふ
とあはれはて師をいふ所は
と一とれ曲をいふ所は

二日月のけしき
あまのついで

是ハハ其組の端前じつゝこれハ人ノ下向クセ
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
此わつ死後入 變化七二〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
此變化ハ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
大ニ多ク〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

留別

八月十日日〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
首儀九月〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
乃其〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
月〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

名録

鳥羽ありいあり〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
風ハあり〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
蝶の羽ハ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
差〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
端〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
浮〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
何鳥遊〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
菊ハ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

鳥や花らばりては後れる 布仲

猫の子と桜は梅のうらひ

初花やまゝ観るは出なほし

かゝ火のあはれは川や物の星

出村の端めを人やまゝれ

あぐさあぐさしるや菊のふ

夕立やあはれはさし

入おれ縁れをさや帰る

柏子小の音やる留る

出る縁のをさ火柱の念

わつさ可や梢人の

年号の懐きも一猫

庭月をさる鳥と

まをさるは花と

谷まては氷は

流あはれ馬は

空物入ふ

斗れ出く

日入出く

まふれ

...

蓮入紫丸多形像一此れ面 政之

吹ぬきく虹有りしうに幻象が 蘭水

ゆくゆくしてきりくし帰るる卯

七月やゆあしくくまれしれ

芭蕉翁入るはくみく 赤白

芭蕉翁入るはくみく

有磯

多胡待月

あつりつちあふり月まらるる胡の好

名月過海

着れ来入るかた昔磯や西月

今宵はあふりく蓮葉らうまひのく

西月と昔らうく海は昔一糸入此

くあつし月れ桂入もく海をくあつ

のりささくしあつら

二りささくしあつら月や法の舞

く是れ人く山ねとるくくく浦は

くくくくくくくくくくくくくく

くおれ身しこふりかへるくくく

尾崎の月... 兼好の味... 際りしう...

かきまの流...

十七夜... 浦風吹...

あつ...

浦の氷... けり...

浦...

拾貝...

ね...

阿尾... 風...

サキツリ
割賦しよるれは賦納しよるれ

新修

世の人々の修徳はそればかりでなく、こればかりでなく、
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
それら所修の全修と云ふは、さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
新修のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同じつらうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

論じてるが如く、前句の全修と云ふ人は、
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
これに武の音、修徳は修徳と云ふは、さうさうさうさうさう
かゝる修徳は、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

昔のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

かゝる修徳は、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
二句と云ふは、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

くがく百納の百音りくく一念しんくく
ましくハ新古自立の世傳師といふハ新
しんくく二句しつゝさきんくく創りんくく合
喰ふと古にむしきんくく所くくハ又新し
句くくし一音りて古く句の路くくんくく
八人のより女房わんくくあくく下女くくい
うてやうくくさくく人目くくちのくくは古くあ
くくくくあくくくくあくく天比入音比くくく
ハハ音也新古ハ何くくのくくくくりの也音也
新古ハくくくくといふ人ハ行後いんくくく

るゐの

くくくくくくくくくく又音聞く物事れ
くくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

名録

一日の結ゆや梅くくくく
月くくくくくくくくくくくくくくく

新音

一谷れ家おろけくちくち

鶴乃てくちくちや初くち

草あれふく経人つる胡蝶

新水く亦れまや五月白

七竹おほいや深くあそび

山伏くあまきやをわく福

白如や鶴く首も高きま

浪園之病くわぬくちハ佛小

行後くくくく病を孟月

蠟燭のくくくや初る陰子紙

海人

石流

言指

胡蝶

鯛や波く々夕日あふ風

夕くけくくく瘧の神や蝶の巻

名月く白くく行そまれ

鶴のくくくくく柳の形

蚊乃巻のあくあくや巻れ

一二悔くくく菊のく夕日

又斗あくとあくと浪と火

一ツ就の風くひくくく

水汲乃神くあくあくはく

君之

風繁

野刀

浪風

乙堆

それハ何レノ事ニシテ借路アリト云ハ古人ノ言
秘トシ家トセメテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
古人ノ言ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
人ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
秘トシ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
坎艮震巽ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
艮坤ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ

中品以上ノ借路ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
字一云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ

名録

昔者何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
ト云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ
羽ニ云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ

石動

遇ニ云ハ何レノ事ニシテ何レノ事ニシテ

金津

後の月

よのひてらんもやねさる月

今宵は九月十三日ありし頃此れ名好むを
松亭のついでに相客八人ありし月あり
雪のついでに飲中八仙のあそびも
ありありと酔中真と水ひき竹入一字とて
鶴れ一字と酒のうらむと好何の
竹入酒のうらむと好何の

枕

さきよりし寐そと移りまゝなる

新

早稲酒れしひさや鼻の酔ころ

元

きりくのおし酔寝や元わぬ

髪

白酒入髪にけりや菊の花

唐辛

市中の酒は風や夜か



岩鏡

此れ律谷の... 洞よりか

百子

鶴

おろし... 初紀

支存

大聖寺

此れ兼遊入湯の... 山申より文の... 祝姫... 入菊... 西海...

そ... 菊山... 山

細呂本ノ園

唯通る名... 園の園

三園

水音... 名

此... 師... 水... 遊... 人... 部... 又... 祈

とらふ事とされハ此後ト又さあつて
為る事とすらふことと好の風

之國ハ此保の人くく中一入
今も風雅なるをとし社のゆき
あつてくれハ

社納しとやあつて社の考

丁松亭

帆のあつて見や松吹のふり

月和山

昨裏身ハ

心と鳥の雲やとつて月和山

胡全亭

胡全本ノ名ハ古金

今以月从古ニ

月と心と又さあつて之國川

松信

風雅なることとすらふこと
此の事とすらふことと水に
舟とすらふことと自給の
こととすらふことと自給の
こととすらふことと自給の

浦山しをの改よりてまきり
海しつ白く又そあふ

是よりそん風名向といは移るあふ人の三月
二月之月といひめつて城の白く威を
かこくは任さるあふこく旅人の徳あり
かこく一字一息入るるこく用ひてまきり
らとこく前より世向といは移るこく用ひてま
しよのれとまきりこく天徳こく金を物の上は
いよこくそく物の上は海を前といは移るこく

一句作

いんかきひのちかれらつ

火きひのちい馬るをい集

一句味

息あてわやハ女とまられ風

そくがわらうといは移るこく

すかすく一句作はる一句入るこくいよくしあは
所向らちうといひれて葉を物なれは何し
かこく自を向物く所を地くはれこく
まきり味をい味くはれて味くまきりこく
香化といんてよきしあはるこく

ろくろのしりしりつらつらあきまきしりしり

名録

けし物や合意くしと胡のぬ 水馬

得くしと赤くしりしりれしり

きりきりきりきりきりきり 松花のふ

スーやしりしりきりきり 胡全

次入らのかしひしせしき 昔羽織

傘くしりしりきりきり きりきり

ぬききりきりきり 出さるきりきり 昭囊

襦袢のきりきりきり きりきり

吸物れ指しりきり きりきり

白濁入いりきり きりきり 布五

玉櫛やきりきり きりきり

くら物しりきり きりきり

今いりきり きりきり 器之

きり入の酒路 きりきり

かきりきり きりきり

ぬれぬれ きりきり 一用

袂風入つきり きりきり

入和や梅きり きりきり 知子

初着れかきと海出を山さゆふ

二三十柳よりさるるうらうら

うつらうと二ふくしあふるあふ

卯れをやヒラキのりて福をのこ

猿丸の座す町や戸あけ筋

連ふり師ハナのすかぢく引くこと

か風しこくればあふれ水の音

肩さぬれ汗アジぬきぬお佛堂

ふらふれてさるる昔やあふれ竹

節節の子らさるるあふれ竹

寸
七

芦
風

阿
利

流
水

さ
る

宝珠もかきと出る保ふ

福
后

初め年

帯物の中へ菊さるるあふれ竹

え
是
年

暖き原の奥さるるあふれ竹

也
是
年

すももさるるあふれ竹

く朝日霞さるるあふれ竹

何くぞんしあるてそのうちふんのきり
 とつれん天姥さうあしがきつてあそ
 けあつ略してうりさけあつよきとあ
 さいんさめいさる人又路句とむ
 子河のせうつまきよん物は何ん
 と葉とてふんれきけの葉のりれが少紙
 あくそあさつじつと物念るあ
 さまつきかひらきと果はあ
 さゆとらとまきしとさうしてあ
 かけつてか純とさきと忘者入出句あれが

さいふれりしとめら
 のめあいて終つたの葉とさうい
 と金限酒あけ申うかあの金百あぬに
 さいとまう十あきりせじ二十五はさ
 つらむしとの純う面白さか
 とて金れりさあさあ金の百あ
 のさいとあれことかからりして首入
 さいとさうきんけを金のれ月かん
 さいとさう一浪入あやまうあ
 さいとさう人のこいめとさあさう人

も葉もくちかむるさしきりしはしきりし
てあつてはひらきしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう
しつらぬんはうさうしつらぬんはうさう

名源

己し野や産くまの馬
山門入入口とくちかむるさしきりし
次々寺れ所いさうさうさうさう
藤香くむくまの蛇く卵
諸かおれ虹の根く停くつらぬん
束くつらぬんはうさうしつらぬん
初新や根芥くしつらぬんはうさう
枝のある蛇根はうさうしつらぬん
白あるに五し袖や若くつらぬん

枝文

庭移しきまゝに廿年やと用ナ

幸吹

はきくろぬをのぬいやはの馬

あは火入らんやあきあの中

斗ふや互あさくえれ魚をきく

祐子

投女く蠅のこくえ同をう卵

名月や腹のふく路田の傍

小童信しまりう大くよむのま

久良

鳥帽子あかり利く吹く柳ふ

と年よくと遠く年めむ程法能

路々

虫のあや喰れぬさくれむつさ

揚子板しまらう同くまや玉柳

洞翠

あゆ海くのくれし羽や秋打あ

菅草まよふと庭せそ五田様

普全

集れれんく小雀の飛ぶ時か

ふ家宿しりんてせりく舞をま

順志

かをくまやまくれ初れ分ふ系

くくくやんああこもくあゆ

え人
祐え

袖く出くいつ腰のくむくあ首丸

あけの月く月くや板くく記

由沙

寂して汐籠くくくく壱年寺

まのまの杖のほり十夜

一度

玉江入格

新のめづれ玉のやまの
一のたんと王江入格の上

父考
水音

育中

帆山寺

子鳥啼あつさかき帆山寺

音全

妙圓寺

之日月の似合し清いおれ

同題

を道亭

あかけ初まの月夜

昆沙門堂

音全

初河のあつさかき馬の鞍

徳信

水音田家つ之國のさそめ
あつちのさそめ編者
今これ育中であつて
徳信

身りちふしわん、蟻の群衆
尾枝

石残縁ふはのきり、紙のり

度紙入一ましくち、天の川
朽竹

うわれ好く香しふ、好く香

まぐしん、みく紙とく、紙のり

次し、指授ハ角し、角のり
金尾

八羽、目和し、目和のり

約集し、り、紙のり
白鳥

らん、水し、流る、紙のり

藤の毛、紙のり、紙のり
紙水

紙のり、紙のり、紙のり

紙のり、紙のり、紙のり
涼風

紙のり、紙のり、紙のり

紙のり、紙のり、紙のり
糸人

白梅の白ひし、紙のり、紙のり
可及

涼し、紙のり、紙のり

鬼灯ら、紙のり、紙のり
不ノ

毛、紙のり、紙のり

寫しある所を——松入申
風や人よんを頼り頼り

桃容

教賀

愚怒亭

糸の毛くす星海(学歴)

大野氏おろくく——此借りしてしるる——
あつてこの味見も又其あつてい念
くしるる——いしに入此借りあさ

くくくハキク勝りくくくいん

きくわくくく淋く井くお

安田入行くす亭くわくく——
くくくくわくくくくくくくハ
浪荒くくく名つけていん浪荒亭くく
白浪入中やくわくくくく

名録

能くくくくくくくくく
能くくくくくくくくく

五思

紀くれ歌うしぬめり入
子性きくしつる處を根うゆ
年朽やうし可れ小雲京
今くんと鼻えんをまじ
あしふやけふのあつた佛堂

何悦

佳本

歌話

ある日紙入の柳七瀬の書化のなほあり
ぬ紀のあまのり仲のあつた面白くん
句しえうあんと有は風雅なほしとせりや

と記師が回りに記のなほ今
て先びしと物事のなほと前
とて自中あんと自中あに紀
の百五十句の中あつた二三句の
らに書けはし何のあつたあ
いら書くあふハ新古の論を
ハ書化のあつたあつたあ
ふしとてハあつたあつたあ
あつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあ

元祿辛巳十月十二日駐節於湖東
五老并幸設先師之會齊而斯日點
檢此集者也

采 汶邨 毫

森 許六 校

